

# 「人権の世間」をつくる

## 第一回社会同和教育講座

5月18日(日曜日)午後より、第二集会所において、「差別の現実から学ぶ」を原点に社会同和教育講座を開催しました。近畿大学教授 奥田 均さんより「人権の世間をつくる」という演題で、差別解消にむけて熱く語っていただきました。

ユーモアを交え、耳慣れたことばを手掛かりに、その言葉の本質を探っていく中で見えてくるものを分かりやすく話していただきました。

その一つに「部落差別」ということばの解説で、障害者差別・女性差別・在日外国人差別という言葉は、差別を受ける人に「差別」をつけて意味を形成している。同様に考えると「部落」は集落を意味する言葉なので、「部落差別」は『部落出身者差別』という言い方になるのではないかと指摘されました。

また、部落差別の現状に関して、現在世間一般の中には差別意識というより、「忌避意識」(部落問題への無関心)という空気感が漂っているというお話もありました。

さらに、講演では、「差別禁止法の制定」という奥田先生の主張を現実にするためにどう考え、どう取り組むのかという筋道を語っていただきました。その考え方の一つに「禁煙の世間」づくりを例に、世間を作り出している主体を解き明かしながら、世間と

自己との関係性をわかりやすく説明していただきました。テレビドラマの喫煙シーンがなくなったり、喫煙する場所を限定したりするなど、健康増進法を基に受動喫煙を防止することが世の中の常識になり、「禁煙の世間」が定着したことを例として挙げてくれました。

他にも講演の中で、差別解消に向けて考えるキーワードがたくさんありました。

「人間の値打ちは何で決めますか」「人間の値打ちは地面ではわからない」「答えを探ることが値打ちである。」「あなたは、部落出身者ですか。何を基準にして答えましたか」「世間はあなたが作り出す」「土地との接点」「みなされる差別」などのことばが印象に残りました。

物の本質や事実から学ぶことの大切さを感じることでできた講演でした。ご参加ありがとうございました。

「差別のカラクリ」、「見なされる差別」、「土地差別」などの著者で、今回のテーマ「人権の世間をつくる」の題名の本を出版されています。人権プラザ天白の蔵書にあります。

